

幕末明治150年!福井の歴史



福井県は様々な分野で活躍し、多くの功績を残した先人を輩出してきました。
平成30年の新春を迎え、西川知事と東京学芸大学教授・副学長の西川一誠さんと、福井の歴史や先人の魅力、幕末明治150年を機にみなさんに感じてほしいことについて語り合いました。

歴史の魅力

大石さん、歴史の魅力、おもしろさについて教えてください。

大石 今日、私たちが接している全てのものには過去があります。その成り立ちを知ることは今を知ることであり、歴史のおもしろさにつながります。

例えば赤穂浪士の討ち入りも考えた場合、赤穂浪士の討ち入りという歴史上の事実とはひとりでありますが、それが時代とともにドラマになっていき、ストーリー化されることになりました。

私は「ヒストリー」からストーリー「へ」という言い方をしていますが、そのストーリーの多彩さは、歴史を学ぶおもしろさにつながります。それは歴史を解釈し、史実を再現するおもしろさにもなります。

近世史を専門に歴史を研究、時代劇や時代小説などの時代考証を行い、過去の言葉遣いや生活習慣、政治制度などが史実として正しいかどうかを検証している。
平成21年に時代考証学会を設立し、同会の会長も務める。

「ストーリーやドラマは人の数だけありますが、福井でも多くの人が活躍しましたね。」

知事 福井の場合は、幕末から明治にかけて、多くの先人が活躍しました。

福井藩の松平春嶽や橋本左内、由利公正、小浜藩の梅田雲浜、大野藩の内山兄弟、鯖江藩の間部詮勝などが代表的です。

幕末明治期の福井は、色々な人たちが信頼され、目置かれた地域でした。そして、これからもそういう県でありたいと思います。

福井の歴史を知る

「幕末明治期に活躍した先人が福井に大勢いた」ということは、福井は重要な役割を担っていたんですね。

大石 幕府を倒そうとする討幕派と、幕府を助けようとする佐幕派で議論が激しく割れていましたが、福井藩が出した結論が公武合体です。公家も武家も協力して新しい政府をつくらうという考え方であり、福井藩は排除の論理ではなく、共生・共存の論理をしっかりと持っていました。平和的に新しい時代へ社会を移行させることや、他の藩を主導することができました。

「多くの人に福井の歴史や先人たちについて知ってもらいたいですね。」

知事 まず、福井の人たちが勉強し、学ぶことが大事です。先人たちの活躍を生き生きと描いた「ふるさと福井の先人100人」という本を作り、中学高校生が授業で使いながら勉強しています。

また、最近色々なドラマがつくられています。様々な働きかけを行い、最終的には大河ドラマの誘致を成功させたいと思います。

それから、文化財や史跡をよく見られるような形にしなければなりません。

福井城址では、天守台跡の井戸「福の井」と御廊下橋の整備が既に終わりました。3月には山里口御門の復元を完了させ、色々な形で歴史を体感できるようにしたいと考えています。



復元工事が進む山里口御門

松平春嶽の活躍

「最近、松平春嶽の活躍がテレビや小説などで取り上げられていますか、どのような人物なんでしょうか。」

大石 四人の賢い大名を指す「幕末の四賢侯」の一人でした。早くから公武合体を唱えており、先見性がありました。春嶽の構想がうまくいっていったら、争い抜きに新しい近代へ移行できたと思います。

知事 春嶽は、京都や江戸の情報を取り入れるのが早く、洞察力に優れ、先進的な考えを持っていたため、幕末に活躍できました。人材を登用するのことも、熊本



福井県知事 西川一誠



東京学芸大学教授・副学長 大石学さん

坂本龍馬の手紙

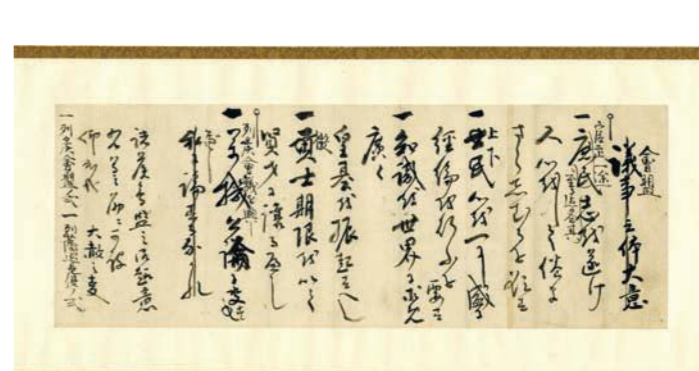
「昨年は、坂本龍馬が福井藩の中根雪江に宛てた書状が発見されましたね。」



松平春嶽(福井藩16代藩主)
(福井市立郷土歴史博物館蔵)
財政復興を中心とする藩政改革を推進。島津斉彬、山内容堂、伊達宗城とともに「幕末の四賢侯」に数えられ、幕府の政事総裁職(現在の総理大臣)も務めた。

知事 坂本龍馬は、由利公正がないと新政府の財政は自立できないという考えを持っており、その財政的手腕を高く評価していました。また、由利が考えた日本初の全国通用紙幣である「太政官札」がなければ、明治維新もかなり遅れたという意見もあり、新政府での財政を確立した方でした。

由利が作成した、五箇条の御誓文の基本となる考え方の「議事之体大意」は、文章も非常に生き生きとしており、身分や



由利公正が著した議事之体大意

議会、人材登用といった由利の民主的で新しい考え方を反映しています。

「由利公正の功績で、ほかに注目すべき点は何でしょうか。」

大石 由利は初代東京府知事となり、銀座の大通りをれんが街にして現代風になりました。

また、視野が広く全国を見る目があり、日本の将来をいつも考えており、岩倉使節団の一員として欧米を回りながら、ヨーロッパの知識や制度を学び、日本で開花させようという努力しました。福井や東京で活躍し、全国を活性化させた人物だと思います。



由利公正
(福井市立郷土歴史博物館蔵)
「五箇条の御誓文」の草案「議事之体大意」を著した。財政的手腕にも優れ、維新後の新政府では初代御用金取扱方(現在の財務大臣)を務めた。

幕末明治150年

「今年は幕末明治150年の年です。みなさんにはどんなことを感じてほしいですか。」

大石 世界を見渡すと、日本の周りや世界中でいろいろな緊張関係が起こっています。AかBかを選ぶ排除の論理では

なく、春嶽や龍馬が持っていたAもBも両方を巻き込み、ともに生きるような感覚を、日本がどんな世界に発信していく必要があると思います。特に福井が発信地となって、みんなと一緒にやっというところという考え方を、どんな世界にアピールしていく年になってほしいです。

「福井の歴史や先人の魅力を伝える絶好の機会でもありますね。」

知事 先人の偉業をみなさんに知っていただくため、3月から幕末明治福井150年博を開きます。県内の市町と協力しながら、文化施設での展示会やシンポジウムを行う予定です。

また、四賢侯の一人がいた愛媛県(伊達宗城)、天狗党(天皇を敬い、外国の侵略を撃退しようとする思想を持った水戸藩の集団)と関係のある茨城県など、福井とゆかりのある県と連携しながら、幕末明治をみなさんに知っていただくよう努力し、多くの人に来県してほしいと思います。

今年の抱負

「最後に、今年の抱負をお聞かせください。」

大石 幕末明治150年の節目に、明治維新は偉大で日本の近代化がそこから始まったという見方や、江戸を壊して明治ができたという見方を卒業し、江戸の集大成として明治を見てほしいです。勝ち組と負け組、進んだ西と遅れた東という見方がこれまで続いていましたが、日本の社会全体が近代になっていくという見方が必要です。江戸から明治への転換を見直す大事なきっかけにする年だと思います。

知事 今年は何国体・障スポの年でもあり、色々な意味で節目の年です。幕末明治をしっかりと押さえるから、福井ブランドを全国に発信します。また、パランスがとれ、できる限り争いを起こさず今の日本の歴史の基本をつくってきた福井の伝統と歴史を我々が学び、多くの人に伝える年になりたいです。